

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書
2020年度報告書

代表者氏名	李 艷	所属	聖泉大学 人間学部
研究集会等名称	文化と心理学		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください） 会員 8名（うち認定心理士 8名） 非会員 7名（うち認定心理士 5名）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 2020年度助成研究期間には、研究会3回、一般公開講演会1回を開催した。 2020年度の研究会活動はコロナ禍により、世界各国の政府の取り組みに関する意思決定の比較、不安や恐怖によって生じた社会現象を中心にして、比較文化アプローチの研究をおこなった。 2020年度一般公開講演会（「文化と心理学研究会」通算第15回講演会の報告 2020年2月3日日本心理学会「文化と心理学研究会」第15回公開講演会が オンラインにて開催されました。 講演のテーマ：【コロナ禍におけるリスク認知と意思決定－】 講師：竹村和久先生（早稲田大学文学部心理学教室教授） 早稲田大学意思決定研究所所長、早稲田大学理工学術院総合研究所兼任研究員、国際応用心理学会（IAAP）フェロー、東京工業大学 博士（学術）北里大学 博士（医学）、筑波大学大学院システム情報工学科助教授、カーネギーメロン大学社会意思決定学部フルブライト上級研究員などを経て現職。 専門領域は、行動意思決定論、経済心理学、社会心理学、行動計量学。 論文と著書多数。 講演は以下の内容要旨で行われた。 コロナ禍の中で人々のリスク認知や意思決定が長期にわたり客観的リスクに基づいてなされていないこと、専門家を含めて集団・組織的レベルで批判的思考が軽視された意思決定がなされている現実について具体例をもとに説明し、その心理的要因を考察する。 講演は大好評で、参加者から以下のような感想を頂きました。 「コロナに関する沢山の情報が飛び回っているので自分自身で情報を見極めなければいけないと感じた。」「新規なリスクに過剰に反応する傾向があるとスライド資料に示されている。新型コロナウイルスよりも新型コロナウイルスの変異種の方に関心が行っていると思った。」「人々のリスク認知や、意思決定は、必ずしも客観的とは言えていなく、特に新しいことには過剰反応する傾向があると聞いて確かにそうだなと思いました。」 最後に、講師先生はコロナ時代に若者によりよい意思決定のための処方箋を提言した。</p>		

日本心理学会【文化と心理学研究会】15回公開講演会 参加者リスト

布施 薫	フセ カオル
青山 美里	アオヤマ ミサト
伊藤 晴奎	イトウ ハルキ
岩井 優希	イワイ ユキ
後藤 真未	ゴトウ マミ
西藤 加奈	サイトウ カナ
田中 和真	タカハシ ハジメ
南 雄大	ミナミ ユダイ
山田 大誠	ヤマダ ダイセイ
王 婪	オウセイ
何 安琪	カアンキ
蒋 映茜	ショウ エイセン
譚 晶	タン ショウ
邓 心玥	トウ シンケツ
楊 子	ヨウコ
天久 翔斗	アメク ショウト
植田 要	ウエダ カメ
植村 真史	ウエムラ マサフミ
大谷 琉晏	オオタニ ルアン
大平 龍聖	オオヒラ リュウセイ
小野 太悟	オノダ イゴ
亀井 玲那	カメイ レイナ
河合 鈴	カワイスズ
川井田 朱莉	カヰタ シュリ
川端 海友	カワバタ ハミユウ
木村 祐太	キムラ ユウタ
桐原 和奏	キリハラ ワカナ
桐村 涼太	キリムラ リョウタ
倉永 奈由子	クラナガ ナユコ
佐藤 史菜	サトウ フミナ
帽森 瑠夢	ズキンモリ ルム
鈴木 卓磨	スズキ タクマ
武田 純奈	タケダ スミナ
土山 桃香	ツチヤマ モモカ
黒葛 真生	ツヅラ マサキ
登坂 息吹	トサカ イブキ

2020年3月11日

日本心理学会研究会 2019 年度会計報告書

研究会名称 文化と心理学研究会

研究会番号 研 20004

年月日	項目	助成金額	金額
2021年2月3日	公開講演会講師謝礼(1名)	¥30,000	¥30,000
	合計		30,000

注：研究会活動のほかの費用は李艶が個人負担しました。